

国立公園の利用拠点には、良好な自然環境、日本的な文化や人の営みの特徴など、旅行者を惹き付ける際立つ要素がある。**<ポテンシャル>**

一方で、インバウンド対応や個人旅行など旅行ニーズの変化への対応が遅れ、廃屋化した建物が自然環境と文化資産が相まった魅力を著しく妨げている。**<課題>**

国立公園利用拠点の上質化

地域の関係者が策定する利用拠点計画に基づき、新たな民間投資を呼び込み地域が一体となった面的な整備改善を推進し、滞在環境の上質化を図る



【事業内容】

I 利用拠点計画策定

地元自治体（都道府県、市町村）が主体となり、環境省や既存民間事業者等と協議して策定

<継続>

II 事業

- ① 廃屋の撤去
民間事業者の導入を前提とした撤去
- ② インバウンド機能向上
Wi-Fi、多言語サイン、トイレ洋式化
- ③ まちなみの改善
地域文化が体感できるまちなみ改善

- ④ 既存施設の観光資源化
利用が停止又は利用機会が減少した施設のインバウンド受入環境整備を前提とした施設の機能転換または強化のための内装及び設備（文化資源活用または体験・学習ツアーと連携して実施）
- ⑤ 引き算の景観改善
利用拠点の景観改善のための無電柱化、通景伐採及び駐車場舗装面の緑地化。

III 自然景観地の核心地の上質化事業

公園内の核心地に位置する展望所・休憩所などの利用施設の改修

【事業実施スキーム】

直轄事業（II①のみ）、
補助事業（補助率：1/2、2/3（I利用拠点整備改善計画を策定する場合））

【効果】

外国人旅行者の満足度向上、滞在時間、リピーター増加